

2020年8月1日開院

“Yuuai Medical Center”

友愛医療センター 心臓血管外科だより

Vol.30
2023年
12月

2023年の低侵襲冠動脈バイパス術を振り返って

「低侵襲冠動脈バイパス術」

何が「低侵襲」かといいますと「胸骨および肋骨離断がない」ということです。通常の冠動脈バイパス術は胸骨正中切開アプローチですので、どうしても胸骨を縦切開して手術を完遂します。術後3ヶ月の上半身の運動制限が必要となるわけです。車の運転は仕事に大きな支障を来すこととなり、これが負担となった手術治療をためらう患者さんも多くおられます。

「低侵襲冠動脈バイパス術」は骨の離断がないため、退院時より車の運転が可能であり、早期仕事も復帰が可能となります。

当科ではこの手術を2015年より開始しておりますが2023年は本日11月20日時点で17名の患者さんのこの手術を施行しております。今年の詳細なデータは年明けにまた公表しますが、現時点では17名ということになります。



<結果>

- * 全例人工心肺の使用なし
- * 吻合したグラフト開存率100%
- * 平均冠動脈吻合数 2.9箇所 (1-4カ所)
- * 術後平均在院日数 13日 (7-52日)
- * 術後主要合併症 (脳梗塞・縦隔炎) なし
- * 病院死亡なし



最近若く、仕事が忙しい患者さんからの手術依頼が増えております。「心臓の手術治療は一生ものだからそれを最優先とする」という考えは重要ですが、現実には皆さん自身や誰か(家族等)の生活を背負いながら治療をうける方が多いのも事実です。定型的な結果をだせる治療であるのなら、治療の質を維持しながら「低侵襲」とすることは外科医の責務です。これがなかなか難しいことは理解しておりますが追求していきたいと思っております。

執筆：

心臓血管外科 部長 山内 昭彦



山内昭彦ブログ「日本最南端の心臓外科医日記」より
「MICS-CABGによる回旋枝領域へのバイパス」



心臓血管外科の
Facebookが
新しくなりました！

